

## 上限価格方式の運用に関する研究会（第5回） 議事概要

1. 日時：令和5年6月7日（水）10:00～10:39
2. 場所：オンライン会議
3. 出席者
  - (1) 構成員（五十音順、敬称略）

伊藤 成康、関口 博正、辻 正次（座長）、長田 三紀、中村 彰宏、山内 弘隆（座長代理）
  - (2) 総務省  
木村 電気通信事業部長、片桐 料金サービス課長、寺本 料金サービス課企画官、  
浅川 料金サービス課課長補佐
  - (3) オブザーバー  
東日本電信電話株式会社、西日本電信電話株式会社
4. 議題
  - (1) 第一次報告書
  - (2) 次期X値の算定方法
  - (3) その他

### <第一次報告書>

（事務局から資料1及び資料2について説明）

#### 【山内座長代理】

内容について、既に議論したことなので、異存はございませんので、そのことだけ発言させていただきます。ありがとうございます。

#### 【辻座長】

今、山内座長代理が言われましたように、これまで議論を重ねてきた結果として今日の報告書を作成していただいていますので、議論も出尽くしたというふうに思います。この資料2をもちまして本研究会の第一次報告書としたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

#### 【辻座長】

そうしましたら、そのようにさせていただきます。

#### <次期X値の算定方法>

(西日本電信電話株式会社から資料3について説明)

#### 【伊藤構成員】

私がこれまで関心を持って長い期間お世話になっていますが、いろいろと中心的にコメントさせていただいた分野の効率化分析に関連した今後のデータ提供の見通しという部分で、NTT西日本さんの社内体制の変更に伴ってサンプルがかなり大幅に減る見通しであるということで、これは御提供いただくデータに基づいて分析を進める以外に方法はございませんので、これは事務局の皆様の御判断もありますけれども、これまでの方法を踏襲していくのかどうするのかという御検討の上に進めていくより仕方がないと思うのです。NTT西日本さんが社全体として1サンプルで、NTT東日本さんは支店別という形になりますと、本当にDEA分析なども、できないことはないのですけれども、参考程度の結果がどれぐらいの精度で出るかなというのは、やってみないと分からないというところがありますけれども、正直、サンプルが少なくなって、やれることが少なくなるなという素朴な印象を今のところ抱いております。

NTT東日本さんも同様の形に今後なっていくとすると、東・西で1つまとめてという形になりまして、そうなると、DEAという方法の適用は、外国のデータなどを持ってきて比べるとか、そうなると、かなり危ない要素というか、ドラスティックに考え方も変わってしまうので、多分そういうことにはならないと思いますが、生産性指数の時系列のデータでTFPの指数を計算するとか、これまでやってきたこととほぼ、そう大幅には変わらないやり方を何か見つけて、この結果が正しいと信じて何かをしますということには、もちろんなりませんけれども、利用可能なデータが減るということの意味はかなり重いなという感想を現状では抱いております。

ただ、私、今、いろいろかなり勝手なことを申しましたけれども、今後の話ですので、これはもう慎重に皆さんの御議論の上、事務局の皆さんの御判断を待って、どういう方法で効率化分析にパッチを当てていくかということを考えていただくのがよろしいかなと思います。

#### 【辻座長】

貴重な御指摘、ありがとうございました。確かにサンプル数が減っていくということは、これはどうしようもないので、今までのものを踏襲しては、計算できないわけです。新しい方法がこれまでの結果との整合性とかということになりますと、これはまた難しい話になりますので、少し時間をかけて考えてみたいと思います。

NTTの皆さんには、データを出していただくのは大変申し訳ないですが、できるだけ精緻なデータを出していただき、効率性分析ができるようなものをお願いしたいと思っております。

#### 【中村構成員】

私も、基本的には、伊藤先生のおっしゃったとおりの感想のようなお話になるかと思うのですが、DEA自体ももちろんできないわけではありません。もちろん今の西日本のサンプルが1つになってしまうということも含めて、データさえ集まってしまうと、DEAの分析自体はできないわけではないので、そういったものを計算してみることは、正直なところ、コストとしては大したことはないような感じがいたしますので、やってみるのはあるのかなと思います。

ただ、伊藤先生がおっしゃったとおり、状況が変わってきて、やっぱり西日本1サンプルというような規模感の全然違うものが入ってきて、確率的な要素のないDEAで分析する。やっぱり結果の解釈というのは、また今までとは違ったものになりますので、あくまでいろいろな参考にできる情報の中の1つという扱いになるのが、ここは致し方ないのかなというふうに思っております。

これは効率化分析の面ではそのとおりですが、ほかにいろいろこれまでの情報等も使いながら、特に今回、次期のIPマイグレーションの過渡期的なところということも考えますと、今後、ずっと新しいやり方をいろいろ考えていくというケースではありませぬので、今回だけというところを考えると、今回のものについては、例えば、過去の予測の収支の話と実績の収支のところを、どのぐらい予測と実績の差があったかみたいなのも参考にできる情報になるのかなとも思いました。ただ、過去に予測したものよりも実績がすごく低くできたので、今回もできるだろうみたいな仕組みは、インセンティブ規制とすると、過去に頑張ったら、次、絞られるみたいなのところは逆の効果ですので、そういう注意は当然必要なんですけれども、いろいろと参考にできるものを、今回いろいろ使ってみるといのは、年末に向けて何か用意できるものはいろいろ用意していくというの

はすごく大事だなと思いました。本当に理論的な話では全然ないんですけども、根拠のある、エビデンスのある議論ではないですが、感想としては今のようには思いました。

**【辻座長】**

確におっしゃられるように、出てきた結果を見て判断せざるを得ないので、事前的にどのような予測になるかは、方法論もまだ定まっておらず、言えません。今回、12月のものは、マイグレーションのプロセスの一環ですので、マイグレーションが終わりましたら、また長期にわたって安定的な計測は可能になります。今回は短期間の1回限りと回数が決まっておりますから、どのようなものが出てきても、過去との連続性は結果を見て、判断するしかないと思います。

**【関口構成員】**

伊藤先生、中村先生からの御指摘のとおりで、私も分析手法については、データの制約が一番ネックになって、今後これを継続することにどこまで無理をしなければいけないかという議論を本研究会とは違う上位の会議でして頂く価値があると感じております。

その意味では、今回の計算についても、従来どおりということではなくて、御提案のような簡素化で行うということについても賛成でございます。NTT東西の収益構造が基本料が大宗を占め、通話料がほとんどなくなりつつあるという中で、通話料の分析にエネルギーを使わなければいけないという今までの現状については、全体的な効率性を考えると、あまり生産的ではない作業にエネルギーを費やすのもいかがかと思っておりますので、こういったものについての簡素化は十分に納得できるところだというふうに考えております。

また、収入面だけではなくて費用面についても、NTTさんは勤務場所を自宅が原則として、出社するのは出張であるというふうに新しいルールをもう既に運用され、今までの常識からすると、かなりドラスティックな修正を制度上加えていらっしゃるって、過去のトレンドもあまり役に立たない位の変更が、現在進行形で進みつつあると認識しております。

その意味でも、収入費用とともに、激変期の中でこうやって基本料依存の事業運営という実態がPSTNの世界では見えてきているという状況下では、作業をできる限り簡略化するという事に賛成いたします。また、上位の会議において存廃を含めた検討をぜひ進めて頂きたいと希望いたします。

以上でございます。

**【辻座長】**

御賛同の御意見と受け取りたいと思います。

**【山内座長代理】**

私も、こういう方式で進めるのはよいのではないかというふうに思います。

それで、そもそもが、やっぱりプライスカップを入れるというときの基本的な考え方は、規制プロセスの単純化というか、簡素化というか、そういうものは根本思想にあったわけで、基本的に、かねがね思っていますが、やはり、イギリスでもそうだったのですけれども、プライスカップを入れてからいろいろ複雑になってきたということがあるわけですね。もちろん効率性の測定にデータが必要だというのはよく分かりますが、もともとの基本は、規制自体の仕組み、それから規制プロセスの単純化といいますか、簡素化ということだったと思いますので、今回、1つの御提案として出てきたことは、これでよろしいというふうに思っております。

**【辻座長】**

規制緩和の中で、プライスカップ制度がインセンティブ規制として出ております。このような全体の流れに沿った簡素化と伺いました。

**【長田構成員】**

御専門の先生方のお話を伺っていて、そうなんだろうなというふうには理解いたしました。この移行期の最終場面での今回のX値ということになりますので、できるだけ簡素化した上で、X値、ユーザーに影響が大きい形でその数字が出てくるということが望ましいかなと思っておりますので、これで賛成いたします。

**【辻座長】**

それでは、構成員の皆様方から御意見をいただきました。おおむねこの御提案の簡素化案ということにつきましては御賛同を得られたように思います。NTT東・西におかれましては、今後の会合での収支予測につきまして、この線に沿って御準備をお願いしたいと思っております。

それでは、準備しました議題は全て終了いたしましたので、本日の議論の全体を通じて、構成員の皆様から事務局へ何か御質問等はございますでしょうか。

<次回について>

**【辻座長】**

今回の会合につきまして、事務局からお願いいたします。

**【浅川料金サービス課課長補佐】**

本日はありがとうございました。

次回会合につきましては、後日、事務局より御連絡差し上げます。よろしくお願いたします。

**【辻座長】** それでは、これもちまして第5回会合を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。これにて失礼いたします。